

＜由布市＞ 平成29年度（1）学期 学校評価(4点セット)：1学期の検証

由布市立 阿南小学校

校長 阿部 宰士

学校教育目標 学び合い 助け合い たくましく生きる子どもの育成

| 重点目標 | 達成指標 | 重点的取組 | 取組指標 | 実施率 (%) | 取組状況の確認 (教職員の取組はどうだったか) (どこに課題があったか) | 達成状況の確認 (子どもの変容の状況) (達成指標にどれだけ近づいたか) | 検 証 (取組状況・達成状況から考えられる取組の効果) (改善策を練り上げるための根拠・理由) | 次期に向けた改善策 | |
|------------------------------------|--|-------|---|--|--|--|--|--|------------------------------------|
| ＜知＞ 学びに向かう力をもつ子どもの育成 | ①由布市学力調査において、低位層を30%以下にする (1, 2学期においては、国・算の単元テストにおいて、目標値に対する達成率70%以上を目指す) ②児童アンケートで、全員が「授業がよくわかる」と回答する | 学校 | 見通しと課題を明確に位置付けた、子どもが主体的に取り組む授業の推進 | ①授業者は、見通しと課題のつながりを明確にし、子どもたちの考えの交流を位置付けた算数の授業を工夫する (定着のための時間を除く全時間で、見通しと課題を工夫して位置付ける) | 70% | ◇アンケート結果より 73%の児童(考えを持つことができた78%、考えを話すことができた74%、考えを比べたりつなげたりして考えることができた69%) 70%の教職員ができたと回答 *学校研究の内容でありこれについては2学期に本格的な研究を行うことになる | * 国語と算数の各学年単元末テストにおいて、各観点ごとに子どもたちが目標値を超えたどうかを記録していき、一人ひとりの子どもたちの頑張りや伸びを記録していく * 達成状況の判断は、各観点ごとに総延べ人数に対して、目標値を超えた延べ人数どうであったかで判断する 【国語】 「話す聞く」→ 57/69 (83%) 「書く」→ 24/47 (51%) 「読む」→ 203/226 (90%) 「漢字」→ 204/298 (68%) 「言語」→ 209/268 (78%) 【算数】 「考え方」→ 201/286 (70%) 「技能」→ 260/312 (83%) 「知識理解」→ 270/309 (87%) * 児童アンケートで「全員が「授業がよくわかる」と回答する → 児童 83%、保護者69% | 【指標の妥当性】 取組指標については、下記の【取組状況から】の記述と別紙の「2学期に向けた留意点」にある記述のように改善していく必要がある 達成指標の「授業がよくわかる」については、2学期からは、一つの単元が終わった段階で、(単元のめあて)として示している部分が「よくわかった」かどうかを把握する方向性にしていく 【取組状況から】 ①は現状のまま推進 ②は教職員に努力の余地あり ③は子どもの実態に即す工夫が必要 ④は保護者への働きかけの工夫が必要 ⑤はさらに推進 【達成状況から】 【国語】の「書く」、「漢字」と【算数】の「考え方」については、従前から指摘されている本校としての課題でもあり、今後も丁寧な指導の積み上げが重要になる 併せて、「よくわかる授業」の実現を目指して、学校研究及び授業改善5点セットとつながった、取組指標①の徹底が重要になる | 別紙 《1学期の取組の検証と2学期に向けた改善策》 参照 |
| | | | 阿南小学習のルール4か条の徹底 | ②学級担任は、学習のルール4か条を毎月1回チェックする場を設定し、その結果に即した声かけ指導を工夫する 【担任以外も、チェック結果を認識し、各自の持ち分での指導に生かす】 | 61% | ◇アンケート結果より 67%の児童(必要な物を忘れずにそろえる73%、姿勢をよくした62%) 61%の教職員ができたと回答 *毎月末反省は実施した *教員は声かけしているがまだ努力の余地あり(子どももわかっているが姿勢がよくない) | | | |
| | | | チャレンジタイムを活用した、子どもの実態に即した国語と算数の補充学習の実施 | ③課題やプリントの間違い箇所のやり直し及び修正のチェックを毎回行いながら、子どもの実態に即した支援を行う 【チャレンジタイムの指導に入った全教職員が実践する】 | 81% | ◇アンケート結果より 79%の児童 81%の教職員ができたと回答 *「少してきていない」「できていない」と回答した子どもは8名 | | | |
| | | | 学級担任と連携して、子どもの家庭学習習慣の確立に取り組む | ④懇談と通信をとおして担任と共通理解した、子どもへの具体的な学習支援の方策を実行する | 76% | ◇アンケート結果より 76%の保護者ができたと回答。 (56%の教職員ができたと回答。) *保護者への定期的な働きかけをしていくことが重要 | | | |
| | | | 学校が地域人材の活用を図る学習活動に、人材として積極的に参加する | ⑤各学年が学期に1回以上企画する地域人材活用の学習活動に、積極的に参加する 《参加した学習活動及び子どもたちに向けた感想を書く》 | 75% | 各学年、次のような人材活用の学習活動を実施 ・カプトムシについて(1, 2, 3年)→1名 ・野菜づくり(2年)→1名 ・神楽(4年)→4名 ・水泳指導(3~6年)→2名 ・読み聞かせ(1~6年)→8名 *感想を書いていただけの方は→75% | | | |
| ＜徳＞ 自分に自信・友だちに思いやりをもつ子どもの育成 | ①由布市Q-U調査において、非承認群を15%以下にする (満足群を70%以上にする) ②児童アンケートで、90%以上が「学校が楽しい」と回答する。 | 学校 | 毎月1回の生活研の実施と、その実態把握からとらえた子どもたちの特性をふまえた全教職員による指導の推進 (子どもたちに自己肯定感・自己存在感を味わわせることを念頭に) | ①毎月生活研を実施し、子どもたちの実態と指導の方向性を共通理解し、全教職員で指導を行う 【学級担任は、毎日の学級指導と学期に1回以上のSS Tを実践する】 【担任以外は、各自の持ち分の指導場面で実践する】 | 67% | ◇アンケート結果より 生活研で子どもとらえを伝える→80% 生活研をうけて、担任が月一回程度のSS T等を実践→54% 担任以外は持ち分の指導に生かす→67% *「担任の月一回程度のSS T等の実践」と「担任以外の指導場面に生かす」という部分の具体について、共通理解と実践が十分でない | 【指標の妥当性】 取組指標については、下記の【取組状況から】の記述と別紙の「2学期に向けた留意点」にある記述のように改善していく必要がある 達成指標の「学校が楽しい」については、「楽しい」の具体を明確にして、機会あるごとにアンケートを実施して把握していく必要がある 【取組状況から】 ①は取組指標の留意点を明確にして推進 ②は今後の工夫点を明確にして推進 ③は取組指標の留意点を明確にして推進 ④は保護者への働きかけの工夫が必要 ⑤はさらに推進 【達成状況から】 今後も引き続き、子どもの自尊感情(自己存在感、自己肯定感、他者理解)を高めていくことに焦点を当てた取り組みを積み重ねていくことが重要になる | 別紙 《1学期の取組の検証と2学期に向けた改善策》 参照 | |
| | | | お互いのよいところを認め合う場の設定 | ②学級担任は、各学級の一日のどこかの場面で、「よいところ見つけ」を実践する | 75% | ◇アンケート結果より ・一日のどこかの場面で「よいところ見つけ」を実践する→75% *「よいところ見つけ」の形式化・マンネリ化を防ぐ必要がある | | | |
| | | | 集団生活のきまりを大切に、落ち着いた生活の促進を図る | ③生活目標をもとにして児童会で「なかよしめあて」「あいさつめあて」を立てさせ、学級担任は、各学級の実態に合わせてその具体化に取り組む 【各学級の具体的めあてを全校に向けて掲示し、担任以外は、各自の持ち分の指導場面に生かす】 【毎月、全校でふりかえりの場をもつ】 | 67% | ◇アンケート結果より 具体的に示し指導してきた(担任)→79% 持ち分の指導に生かした(担任以外)→54% *担任以外の職員の指導への生かし方を再考する必要がある | | | |
| | | | 基本的生活習慣の定着を図る | ④PTAが主体となって、学期に1回各家庭で「生活リズムががんばり表」を使って、子どもたちの生活習慣の実態把握・分析・改善すべき点の提案を行い、生活習慣の見直しを促進する | 69% | ◇教師の見取りより がんばり表の実践・実態把握・分析はできているが、改善の提案・生活見直しの促進までにはっていない *保護者アンケートより 子どもたちは年齢に応じた「早寝、早起き」ができている→69% 子どもたちは朝ご飯をきちんと食べている→86% | | | |
| | | | 学校が企画する地域参加の教育活動に積極的に参加する | ⑤参加した教育活動について、必ず子どもたちへの感想を書く | 75% | 各学年、次のような人材活用の学習活動を実施 ・カプトムシについて(1, 2, 3年)→1名 ・野菜づくり(2年)→1名 ・神楽(4年)→4名 ・水泳指導(3~6年)→2名 ・読み聞かせ(1~6年)→8名 *感想を書いていただけの方は→75% | | | |